

研修医の手記

多嘉良 勇也



研修生活を振り返って

ハイサイ。ハジミティ ヤーサイ
多嘉良 ヤイビーン（こんにちは。
はじめまして多嘉良です）。改め
まして、市立釧路総合病院初期研
修医で沖縄県出身の多嘉良と申し
ます。令和元年最初の連携ニュー

スに携わることができ、誠に光栄に思います。

私は医学部3年のころ、当院で毎年開催されてい
るメディカルカフェにて、ファシリテーター役を任
され、タリーズカフェの前で発表をさせていただきました。その時からこの病院の雰囲気が好きで、そ
の後の岸壁炉端での飲み会でも院長先生が気さくに
話しかけてくださったのを覚えています。その時、
院長先生と握手をしたことがきっかけとなって、こ
の病院で働きたいと思い、現在に至ります。

実際に働いてみて、スタッフはとても優秀な方が
多く、困ったときに気軽に相談し、アドバイスを頂

けました。特に救外ではベテランの看護師さんや読
影のヒントをくれる放射線技師さんには大変お世話
になりました。

この2年間の研修期間中には多くのことを学びま
した。一番うれしかったことは、尊敬している上級
医の先生方やベテランの看護師がどうしても入れら
れなかった尿道カテーテルを一発で入れたことです。
飛行機で急変患者さんの対応をしたこともありまし
た。その時は同期の沼口先生と一緒に対応し、美人のCA
さんからすごく感謝されて、周りにいた乗客の皆さ
んからも感動したと言われ、誇らしい気持ちになり
ました。

2年間の研修後はさらに2年間小児科医としてこ
の病院で勤務させて頂く予定です。研修で学んだこ
とを最大限に活かして、お世話になった医師、病院
スタッフに恩返しできるよう努めて参ります。釧路
の患者様のために今後も一生懸命働いていきたいと
思います。

エキスパートナース紹介

Part.19



皆さまこんにちは、慢性心不全看護認定看護師の本間です。2019年7月に認定看護
師の資格を取得し、現在1年目の活動を手探りでを行っています。慢性心不全看護認定看護
師の役割として、心不全患者さんの安定期、増悪期、人生の最終段階にある慢性心不全患者さんとその
ご家族に対して身体的・精神的ケアを行っています。

私が心不全認定看護師を目指した理由としては、循環器病棟、ICU・に勤めて、看護師経験の半分以上
が循環器患者さんと関わってきました。その中で、アドヒアランスの悪い患者さんが多く、重症化して
ICUに再入院してしまうことが多いと感じていました。心不全は完治する病気ではなく徐々に悪化してい
く病気なので、自己管理をしっかり行えば、病気の進行を遅らせることができます。そこで、より専門的
知識を提供すれば心不全を抱えながらもその人や家族が望む生活が送れると考えたことがきっかけで、慢
性心不全看護認定看護師の資格を取得しました。

現在活動の一つとして、人生の最終段階にある慢性心不全患者さんのケアを、緩和ケア認定看護師と協
働し活動を始めています。症例数はまだ少ないですが、身体的問題、精神的問題、社会的問題を的確に捉
え、苦痛を和らげその人らしく生活ができるように、日々関わりを行っています。

今後も、心不全患者さんが道東地域で安心して過ごせるように、医師やコメディカルと協働しケアを行っ
ていきたいと思っています。

慢性心不全看護認定看護師 本間 渉



ごあいさつ



市立釧路総合病院 院長

高平 真

令和初のお正月も過ぎ、皆様にはあらためて日頃の医療連携に
対するご協力に心より感謝申し上げます。

さて、地域医療構想のもと機能分化・連携を加速し地域包括ケ
アシステムを構築していくことが求められております。その中で
昨年9月26日に厚労省「地域医療構想ワーキンググループ」より突
然発表された「再編統合の必要性について特に議論が必要な公立・
公的医療機関」として全国424の公立・公的病院のリストに道内
54病院が含まれ地域住民に大きな混乱と不安を与えました。地域
の実情を考慮しない全国一律の基準による分析に医療界からも多
くの非難の声が上がりました。この広大な医療圏で、なくてはな
らない重要な地域の病院も含まれており、今後の地域医療構想の
進めかたや医師偏在対策にもマイナスの影響を与えたと思います。
少子・高齢化、人口減少が著しい当地の重要な生活インフラであ
る医療を維持していくうえで今後も地域の実情を知る当事者であ
る我々が将来の姿を丁寧に真摯に議論していくべきと考えており
ます。

大きな時代の変化の中で釧路地域の32万人の住民の皆様が安心
して生活をおくれるように地域の医療機関、介護施設や住民の皆
様、行政とも今まで以上に連携を深め、日々の研鑽を怠らず、高
度医療提供体制の継続と進化に努力してまいりたいと思います。

重ねまして、関係各機関のご理解とご協力をお願いいたします。

理念「信頼と満足の創造」

経営方針

- 十分な説明のもとに患者の意思を尊重し、患者中心の医療を行います。
- 地域完結医療を目指し、高度医療・救急医療を充実します。
- 地域医療を支援するため、病診連携を密にします。
- 心温かな質の高い医療サービスを実践するため、日々研鑽します。
- 良識と協調性のある医療人として、意欲と誇りの持てる職場環境づくりに努めます。



市立釧路総合病院

発行責任 広報委員会

〒085-0822 釧路市春湖台1番12号

TEL(0154)41-6121・FAX(0154)41-6511

道東ドクターヘリ就航10周年について

道東ドクターヘリが2009年（平成21年）10月5日（月）に運航を開始して、今年で就航10周年を迎えたことから、2019年（令和元年）10月18日（金）に道東ドクターヘリ就航10周年記念式典を開催いたしました。冒頭、高平院長より、関係者の皆様へ10年間無事に運航ができた事に対するお礼の挨拶が



あり、救命救急センター長の其田副院長より、道東ドクターヘリ10年の歩みについての報告や、地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院救急救命科主任部長兼救命救急センター長の高橋 功副院長から、「ドクターヘリ 心に残る出動」と題して、印象に残ったドクターヘリの出動症例を基に、ドクターヘリ導入による効果と今後の救急医療の課題についてご講演をいただきました。

また、市民の方々には、道東ドクターヘリの活動内容について、今一度ご理解いただくことを目的に、市民公開講座および訓練見学会を10月19日（土）に開催いたしました。

市民公開講座では、ドクターヘリの主な目的、道東ドクターヘリの運航圏、要請・出動の基準、北海道のドクターヘリ配置状況、ドクターヘリに

搭載されている医療機器や、その機能の説明、運航開始から待機終了までの一日の活動の流れ、10年間の運航実績や、道東ドクターヘリ導入による効果と今後の課題等について、其田副院長から講義が行われました。また、当院と基幹連携病院である釧路孝仁会記念病院のフライトナースによる質問コーナーが設けられ、市民の方々日々疑問に感じている事についての質疑応答が行われました。

訓練見学会は、釧路市消防本部と、道東ドクターヘリの運航を委託している中日本航空（株）の協力により行われ、傷病の覚地からドクターヘリ要請、救急車と合流するランデブーポイントへのドクターヘリの着陸、救急隊から医療スタッフへの傷病者の引継ぎから医療活動、処置後のドクターヘリへの患者搬入等、ドクターヘリ活動の一連の流れを実際に見学していただきました。その後、ドクターヘリの撮影・見学会や、フライトドクター、フライトナース、パイロット等への質問コーナーが設けられ、質疑応答が行われました。

運航開始からの10年間で、道東ドクターヘリは釧路市をはじめ、道東圏に必要なインフラとなっている事を改めて感じる事ができた2日間でありました。

医療機関をはじめ関係機関の皆様方には、今後も道東の救命救急の発展のため、ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



リンパ浮腫外来の活動について

当院では毎月第1、第3火曜日にリンパ浮腫外来を行っており、生活指導やマッサージ、弾性着衣や包帯での圧迫療法、運動等の活動を行っています。患者さんは乳がん、婦人科がん、泌尿器科がんの患者さんを中心に廃用性の浮腫や、最近ではがん終末期で緩和的にマッサージを依頼されることも増えてきました。患者さんからはよく「リンパマッサージってもっと痛いと思っていた」という言葉を聞くことがありますが、表皮のすぐ下を流れているリンパ管にアプローチするマッサージなので手の重さ位の力で柔らかく行うのが基本です。患者さんに「心地よい」と感じてもらえるようなケアを心掛けて今後も活動していきたいと思っています。

リンパ浮腫外来担当 坂本 志信



— 釧路市立高等看護学院 新校舎竣工にむけて —

いよいよ待望の新校舎が令和2年2月に完成予定となり、協力していただいた皆様への感謝と、これから始まる様々な事（引越や事務連絡等）への不安で複雑な心境です。しかしながら、3年生の卒業式を行うことやあたたかい校舎で勉強できることなどを学生全員が楽しみにしていることを考えると、どんなことも乗り越えていかなければと強い気持ちであります。病院及び関係者の皆様にもご迷惑をおかけしたことをこの場でお詫び申し上げます。

学務課長 大西 博子

